

## 会議結果報告

### 1 会議の名称

平成26年度第1回光市環境審議会

### 2 開催日時

平成26年11月5日（水）14時00分から15時15分

### 3 開催場所

市役所本庁3階大会議室2号

### 4 出席人数

委員11名出席（3名欠席）、事務局7人出席

### 5 公開・一部非公開の別

公開

### 6 会議の議事録（要旨）

#### （1）開会

所属事業所の人事異動に伴い、岩本辰男委員（大和工業団体連絡協議会）が退任し、新たに、金子雄一郎委員（同）に委員を委嘱したことを報告

#### （2）会長あいさつ

（会長）

時間もないので、早速、説明をお願いしたい。

#### （3）議事（報告事項）

ア 第2次光市環境基本計画の進捗状況について

「第2次光市環境基本計画の進捗状況」（資料1）について、事務局から要旨を説明

**【質疑・意見等】**

（委員）

「人と自然のハーモニープロジェクト」のうち、「竹林の面積」の数値目標が400haとあるが、数字が大きい方が良いのか。小さい方が良いのか。

（事務局）

竹林の面積は少ない方が良いという立場である。現状426haある面積を最終的には400haとしたい。

(委員)

平成 29 年の数値目標は、光市独自の数字なのか、それとも、山口県の全体的な動きを反映させたものなのか。

(事務局)

基本的には、市が独自に設定した数値である。計画策定当時の数値をベースに協議をして定めたものである。

(委員)

この目標は、他の市町と比較して、どのような水準にあるのか。

(事務局)

他市町の目標数値と比べたことがなく、データも持ち合わせていないので分からない。目標値について補足すると、環境基本計画の上位計画として、まちづくり全体を網羅した総合計画がある。総合計画の中で、環境分野における取り組みの方向性を示すと同時に、数値目標を定めているため、それらと整合を図ったり、策定当時の状況から財政状況等を考えて、適正な水準を定めたりしたものもある。

#### イ 光市の環境について

「光市の環境について（平成 25 年度光市測定分）」（資料 2）について、事務局から要旨を説明

##### 【質疑・意見等】

(委員)

微小粒子状物質（PM2.5）は、この度は報告しないのか。

(事務局)

PM2.5 は県が測定しており、平成 25 年度のデータが届いていないので、まだ示せない。次回の審議会でお示ししたい。

(委員)

本市の大気環境に、中国の影響は現れていないか。

(事務局)

中国の影響かどうかは分からないが、柳井から岩国にかけて、PM2.5 の値が基準を超えて観測されたことがある。しかし、光高校に設置した観測所では、基準を超えたことはない。

(委員)

80 から 90  $\mu$  g という数値が出たこともあるのではないか。

(事務局)

黄砂が飛ぶときに数値が高かったことがあるが、その原因が黄砂かどうかは県も特定できていない。黄砂に付着して飛来し、それが剥離して観測されるという推測もある。地形的な影響もあるかもしれない。数値自体も確かに出ているが、低いから

本当に影響を受けていないのかということについては、WHOも見解を出しておらず県も諮りかねているのが実情である。

(会長)

大腸菌群数などで使われる「E」とはどのような意味か

(事務局)

E+の後に数字があるが、例えば「3.1E+03」とは、3.1に10の3乗を掛けるという意味である。

(会長)

Eという言葉そのものの意味は。

(事務局)

これは指数表示になっており、掛ける10の何乗を表すものである。

(委員)

大腸菌群数が基準を超えるのは、合併処理浄化槽が行き届いていないからか。毎年度、補助を行っているが、それが追いつかないということか。

(事務局)

大腸菌は自然界の動物の糞尿にも含まれているので、何が一番の原因かはよく分からない。水環境に大腸菌が多く含まれれば、快適な遊泳環境にないことは確かだが、それをもって直ちに人体に影響があるとは限らない。大腸菌は人間の体の中にも存在するものであり、人体に害のある菌もいれば、ない菌も存在する。

(委員)

溶存酸素を表すDO値は多い方がよいのか、少ない方がよいのか。COD（化学的酸素要求量）、BOD（生物学的酸素要求量）は低い方がよいのか。

(委員)

CODやBODという物質はなく、一つの指標である。化学物質が完全に安定するために酸素が必要となる。このことで、水中生物が必要な酸素を化学物質が奪うので、生物が必要な酸素が不足してしまう。BODやCODとは、こうした指標を測定する手法であるが、いずれにしても、酸素を奪う量は少ない方がよい。DOは酸素そのものなので多い方がよい。

(委員)

「ソーラーCITYプロジェクト」は、電力会社と密に連携を取り合って進めなければならない。九州電力が電力の買い取りを止めた影響で訴訟問題などが発生している。中国電力も需給バランスを見ると、近い状況にあると思われる。中国電力とよく相談しながら進めないといけない。光市に破綻事業者が出ると、行政にも悪影響が生じる。

(会長)

個人住宅の屋根に設置する分は良いということだが。

(委員)

個人の分は良いが、メガソーラーは大変厳しい状況である。

(委員)

ゴルフ場跡地へのメガソーラー設置計画はどのくらい進んでいるのか。市で把握していれば教えてほしい。

(事務局)

今年の春に地元説明会があった。その時は、来年の5月頃から工事に入るといった話だった。もちろん電力会社との協議の状況が前提である。5月頃から造成工事に入り、運転開始は2016年の秋頃ということである。

ウ その他

(ア) 次回の予定

今回は、来年3月頃に、平成27年度の環境関連事業の概要、「平成26年度版光市の環境」の報告などを行う予定であること。委員の任期は今年度末までのため、特別な案件がなければ、次回が最後の審議会となる見込みであることを説明

(イ) 大気環境について

室積コミュニティセンター建設終了後、平成27年度中に室積公民館を解体することになることを機会に、今後、本市の公害測定局の意義を再検討していくことを説明

(4) 閉会

ア 環境部長あいさつ

委員からご指摘を受けたように、環境基本計画の進捗については、他市との比較も含め、更なる説明責任を果たしていきたい。

また、自然環境に恵まれた都市として、特に水環境については大変ご関心をお寄せいただいていることから、今後とも、自然を中心とした環境保全活動に努めていきたい。